

2022年度 第2四半期連結決算説明資料

2022年11月10日

株式会社 西島製作所（6363）

【1】 2022年度第2四半期決算実績

【2】 2022年度通期決算見通し

【1】 2022年度第2四半期決算実績

【2】 2022年度通期決算見通し

2022年度第2四半期決算のポイント

- ✓ 海外が牽引し、受注は大幅増
- ✓ 増収及び利益率の向上により、営業利益も大幅増
- ✓ 業績好調に加え円安影響を受けて、通期計画を上方修正

2022年度 第2四半期決算概略

			前年同期比
● 受 注 高	—	454億円	+155億円
● 売 上 高	—	251億円	+37億円
● 営業利益	—	10億円	+7億円
● 経常利益	—	12億円	+7億円
● 親会社株主に帰属する 四半期純利益	—	8億円	+5億円

2022年度 第2四半期連結決算実績（連結）

受注:官需は15.3%減、民需は12.9%増、海外は北アフリカや中東での大型案件が続ки125.2%増、全体では51.8%増の454億円。

売上:官需は2.5%増、民需は2.5%減、海外は34.0%増、全体では17.3%増の251億円。

利益:コロナによる行動制限が緩和され、国内外で活動が活発化していることで販管費は増加したものの、増収効果と利益率の向上で7億円の増加。

単位：億円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年同期比		2022年度 通期計画	進捗率
			増減額	増減率		
受注高	299	454	+155	+51.8%	570	79.6%
売上高	214	251	+37	+17.3%	620	40.5%
売上総利益 (売上総利益率)	54 (25.2%)	71 (28.3%)	+17 (+3.1pt)	+31.5%	164 (26.5%)	43.3%
販管費	51	61	+10	+19.6%	114	53.5%
営業利益 (営業利益率)	3 (1.4%)	10 (4.0%)	+7 (+2.6pt)	+233.3%	50 (8.1%)	20.0%
営業外損益	1	2	+1	+100.0%	—	
経常損益	5	12	+7	+140.0%	50	24.0%
特別損益	0	▲1	▲1	—	—	
親会社株主に帰属する 当期純利益	3	8	+5	+166.7%	37	21.6%

期末レート（1USD）

2021/9末:111.92円

2022/9末:144.81円

想定為替レート:125円

2022年度 第2四半期連結決算実績（単体・子会社別）

■単体

単位：億円

	2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	175	191	+16	+9.1%
売上総利益 (売上総利益率)	34 (19.4%)	41 (21.5%)	+7 (+2.1pt)	+20.6%
販管費	33	37	+4	+12.1%
営業利益 (営業利益率)	1 (+0.6%)	5 (2.6%)	+4 (+2.0pt)	+400.0%

- ✓ 海外案件の利益率向上により、前年同期比で売上9.1%増に対し、売上総利益は20.6%増。
- ✓ コロナによる行動制限が緩和され、活動が活発化していることで販管費は増加したが、増収と利益率の向上で吸収し、営業利益は大幅に増加。
- ✓ 円安による増収効果は、+7億円。

■子会社＊

単位：億円

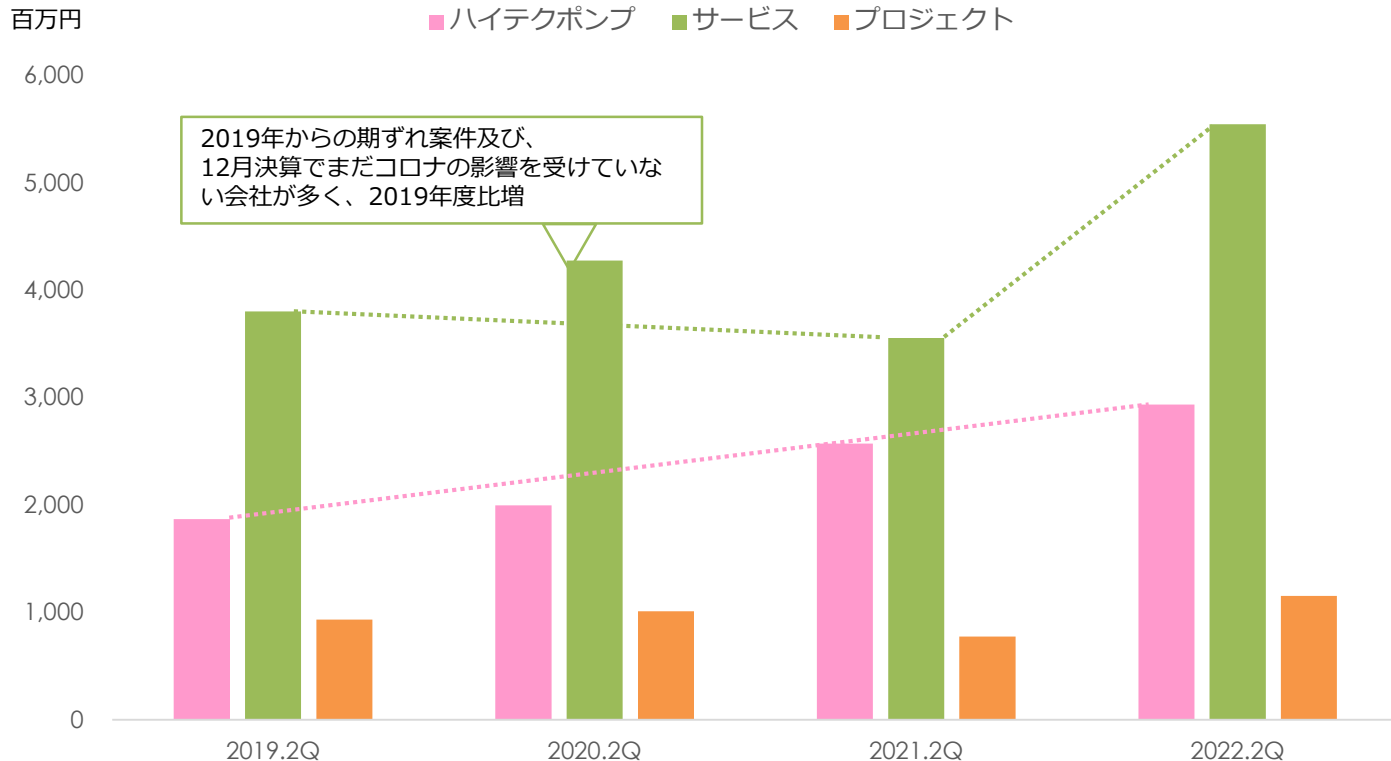
2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	前年度比	
		増減額	増減率
69	96	+27	+39.1%
23 (33.3%)	32 (33.3%)	+9 (±0pt)	+39.1%
22	26	+4	+18.2%
2 (2.9%)	5 (5.2%)	+3 (+2.3pt)	+150.0%

- ✓ 多くの国がほぼコロナ前の状態に戻り、営業活動が活発化したことと円安効果により増収増益。
- ✓ 新規連結会社であるオーストラリアのサービス子会社が貢献。
- ✓ 円安による増収効果は、+12億円。

※子会社決算は子会社の連結調整前の数字となっております。そのため、単体+子会社=連結業績とはなりません。

海外子会社 第2四半期の売上推移

行動規制がほぼ緩和されてサービスが反動増、コロナ前の水準を上回る。



事業領域の定義と売上総利益率の傾向

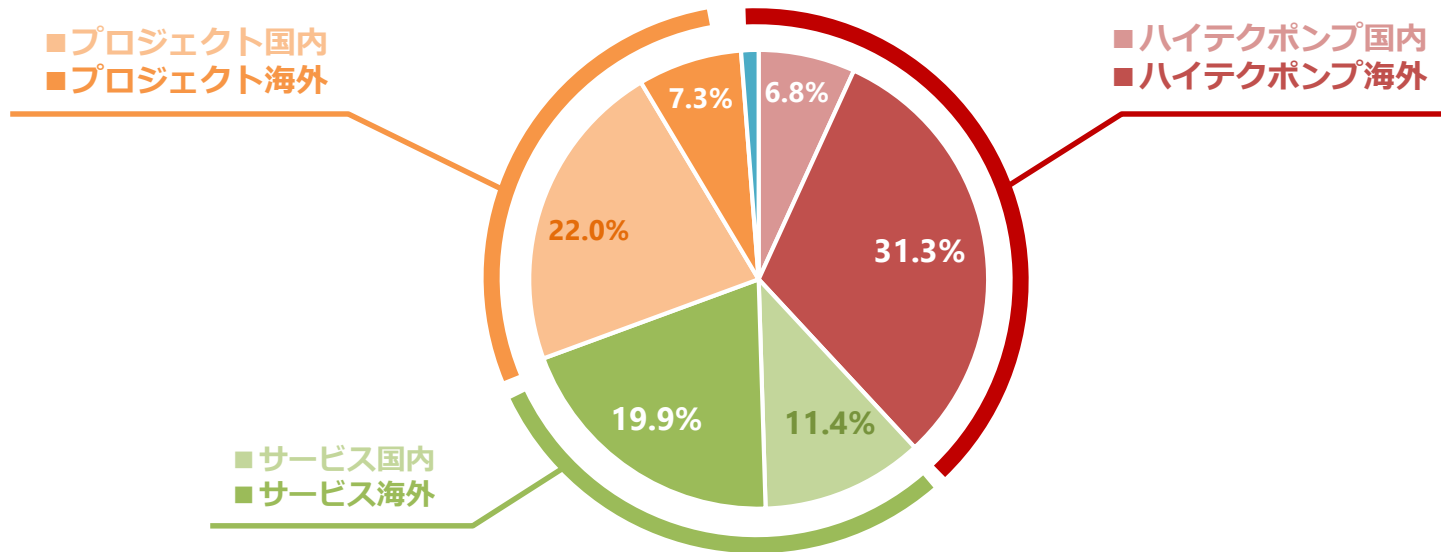
		ハイテクポンプ	サービス	プロジェクト
国内	定義	- GTCCやバイオマスなど発電所向けをはじめとする大型ハイテクポンプ。 - 一般産業向けの標準ポンプ（エコポンプ）。	発電所向けポンプのオーバーホールをはじめ、部品交換や予備機、省エネ提案など。	上下水道、雨水排水、かんがい施設など、官公需向けのEPC案件
	利益率傾向	利益率は標準ポンプは比較的安定、大型ハイテクポンプは設計及び生産の効率化等により改善。 	堅調に推移し、安定的な利益率を維持。 	国や地方自治体向けの公共事業が中心であり、収益性は比較的安定。 
海外	定義	海水淡水化プラント、送水プラント、かんがい、発電所向けポンプをはじめとするハイテクポンプ。	発電所や水プラント（海水淡水化、送水等）向けポンプのオーバーホールや部品交換、REDU、省エネ提案など。	機械・電気のエンジニアリング及び工事を含めたポンプに関連するプラントの請負事業（EPC業務）
	利益率傾向	以前は収益確保に苦戦したが、設計及び生産の効率化、リスク管理の徹底等に加え、円安効果で利益率が大幅に改善。 	各社で増減のばらつきがあり、全体では横ばい。 	リスクが高く利益率低下の要因となりがちなため選択受注をした結果、利益率は向上。 

* 売上総利益率の前年同期比傾向：↗アップ →横ばい ↘ダウン

事業領域別の売上構成比率

売上内訳は前年度比と大きく変わらないが、「ハイテクポンプ海外」の収益性が向上し、全体の利益が大きく増加。

2022年度第2四半期の売上内訳（括弧内は構成比）



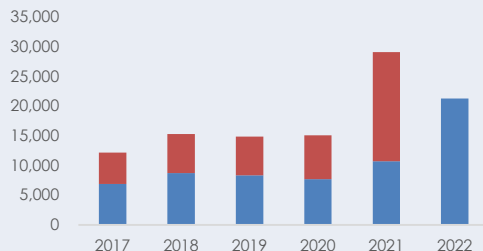
事業領域別 受注状況

6年間の受注推移 (■上期 ■下期)

単位：百万円

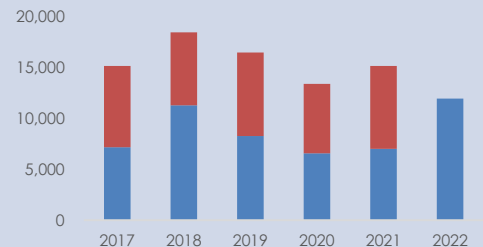
概況

ハイテク ポンプ



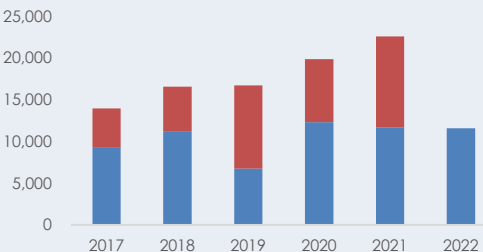
- 2021年度下期より続く、北アフリカや中東諸国においての大型案件を受けて、上期ですでに通期計画をほぼ達成。
- 国内発電所向けポンプは減速傾向が続くものの、エコポンプはカーボンニュートラルの流れを受けて順調に進捗。

サービス



- 2022年度はほぼすべての国でコロナ前の状態に戻り、活動活発化、上期で2021年度通期の8割近くの受注を重ねる。
- 下期も旺盛な受注を期待できることから、コロナ前の水準を見込む。

プロジェクト



- 国内プロジェクト（官需）は上期、苦戦を強いられたが、マーケット自体は、2022年度は国土強靱化計画の2年目となり、今後も安定的な需要を見込む。
- 海外プロジェクトはリスクが高いため、選択受注とする。

空白ページ

【1】 2022年度第2四半期決算実績

【2】 2022年度通期決算見通し

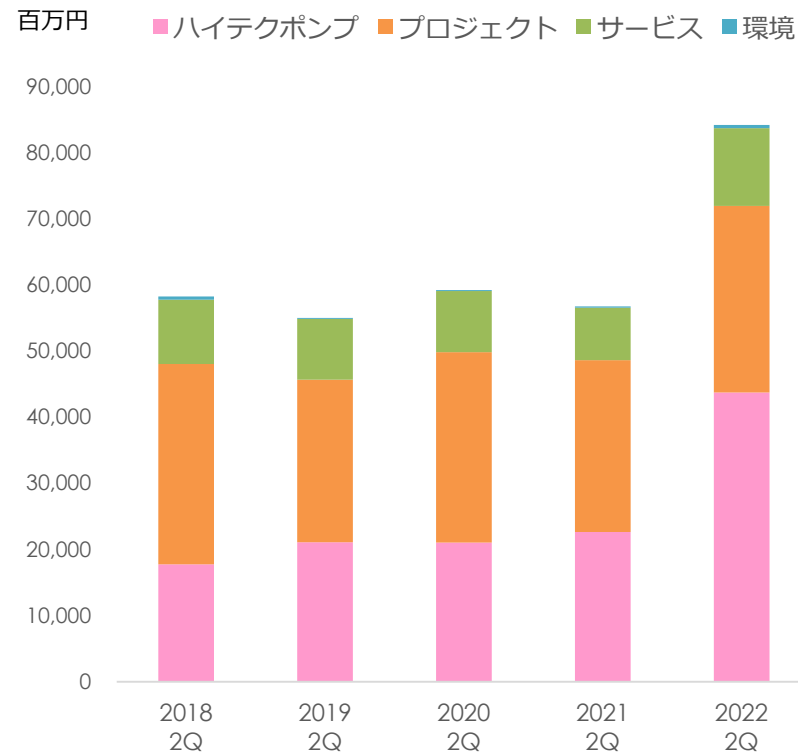
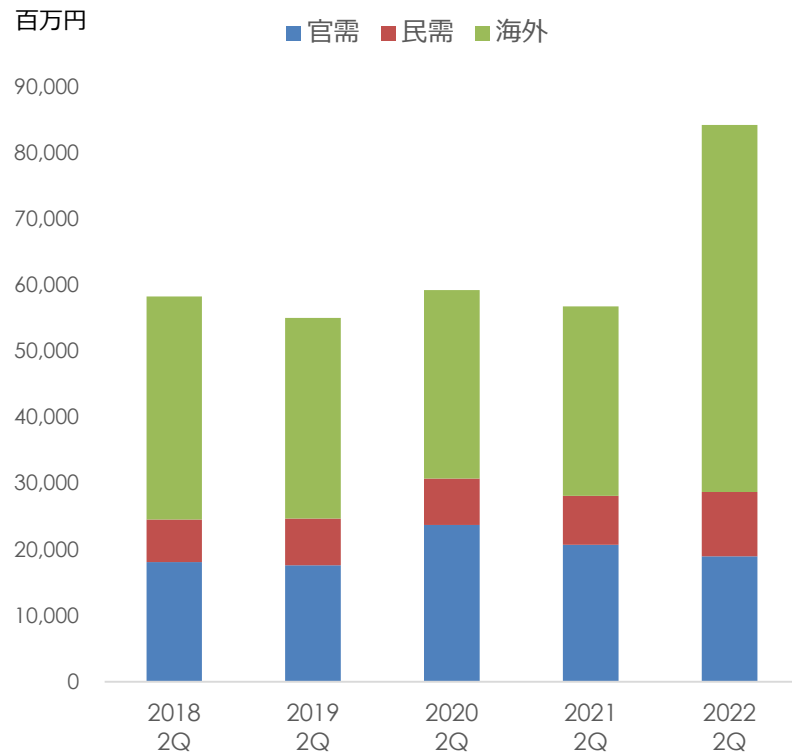
外部環境と当社の対応

外部環境の大きな変化による様々なリスクはあるものの、適切な対応を行い、業績への影響を最小化する努力を継続中。

外部環境の変化	現況	当社の対応
原材料の高騰 ロジスティクスの混乱	- 素材価格の高止まりや品薄の部品もあり、コスト高は続く。 - コンテナ不足は徐々に解消へ向かう。	- 調達・生産拠点の多重化（エンドユーザーに近い調達拠点の開拓） - 顧客との対話強化（価格の見直しや納期調整など）
急激な円安	- 歴史的な円安傾向。 - 期初レート（1ドル）：122.39円→9月末時点144.81円（18.3%円安へ）。	- タイムリーな価格改定努力の継続 - 外貨建て受注に対しては、予約やマリーなどによる為替リスクの最小化方針の継続しつつ、円安メリットを享受。
<u>ロシア・ウクライナ情勢</u>	エネルギー（LNG）危機からの電力不足により、一時的な火力発電所への回帰傾向	適切なメンテナンスや省エネの提案強化

第2四半期末時点の受注残の推移

活発な受注と円安効果により、第2四半期末の時点での受注残は842億円と過去最高の水準。2022年度下期は受注残をこなし、通期では計画値以上の売上を見込む。



2022年度通期決算見通し

1ドル125円から140円へ年間の想定為替レートを修正。

下期も順調な受注・売上及び円安状況が継続する見込みから、通期予想を上方修正。

■連結

単位：億円

	当初計画	修正計画
売上高	620	650
営業利益 (営業利益率)	50 (8.1%)	65 (10.0%)
経常損益	50 (8.1%)	65 (10.0%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	37 (6.0%)	48 (7.4%)

想定為替レート (1USD) 125円 140円

■単体

	当初計画	修正計画
売上高	510	520
営業利益 (営業利益率)	35 (6.9%)	45 (8.7%)

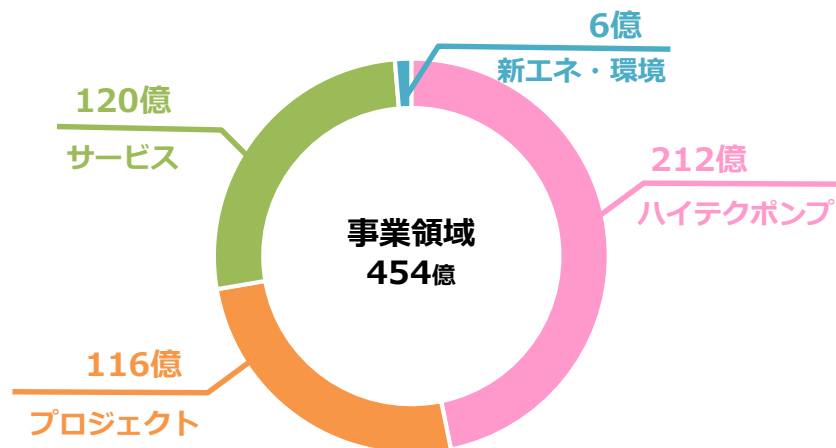
■子会社

	当初計画*	修正計画
売上高	180	217
営業利益 (営業利益率)	16 (8.9%)	21 (9.7%)

※2022年度第1四半期より、子会社の業績を連結調整前の数字で公表しており、上記当初計画も連結調整前の数字となっております。
そのため、2021年度通期決算時に公表した計画値とは異なります。

參考資料

事業領域及び需要先（2022年度第2四半期受注高実績）



ハイテクポンプ

発電所や海水淡水化プラント、上下水道施設、かんがい施設など向けの大型ポンプ（エンジニアリングポンプ）及び一般産業向けのエコポンプ（小型標準ポンプ）。

プロジェクト

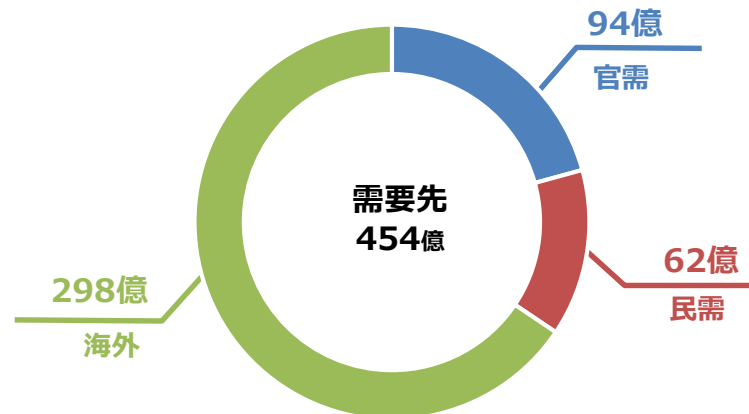
上下水道、かんがい、排水ポンプ場におけるポンプ設備全体のEPC（設計・調達・建設）案件。

サービス

既存ポンプ及びポンプ設備の取替え、保守点検、REDU（Re-Engineering & Design Up）、SV（スーパーバイザー）の派遣、部品交換など。

新エネルギー・環境

風力発電や小水力発電の導入における設計・施工・メンテナンス。
環境装置（農業集落排水向け真空式下水道収集システム）



官公需

日本国内の国及び地方公共団体向け。上下水道施設、排水施設及びかんがい施設など。

民需

日本国内の民間企業向け。火力発電所（事業用、バイオマス発電やごみ焼却発電、自家発電含む）、一般産業の各種工場、ビル設備、商業施設など。

海外

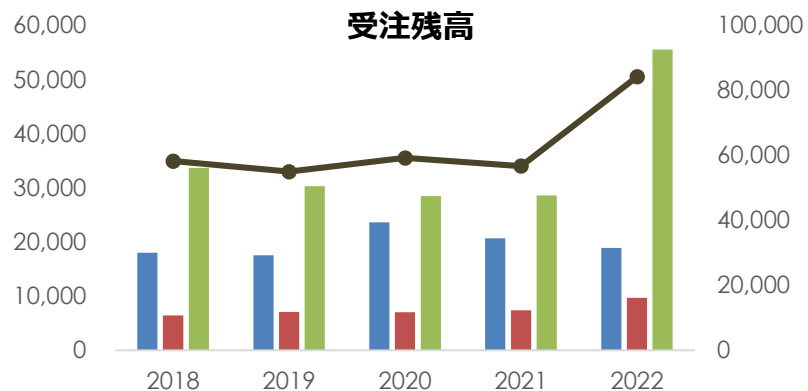
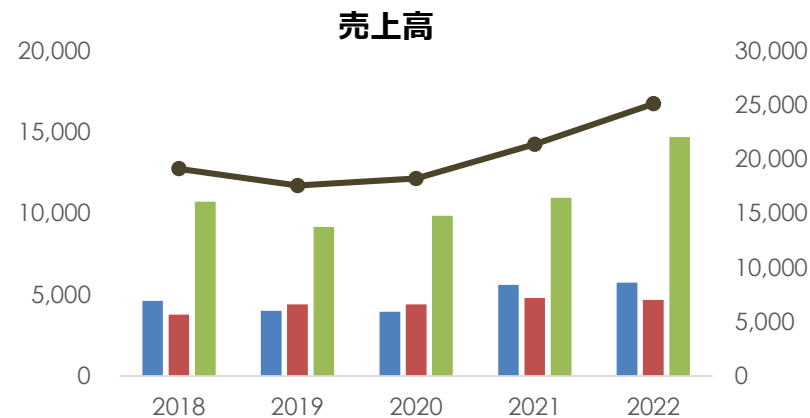
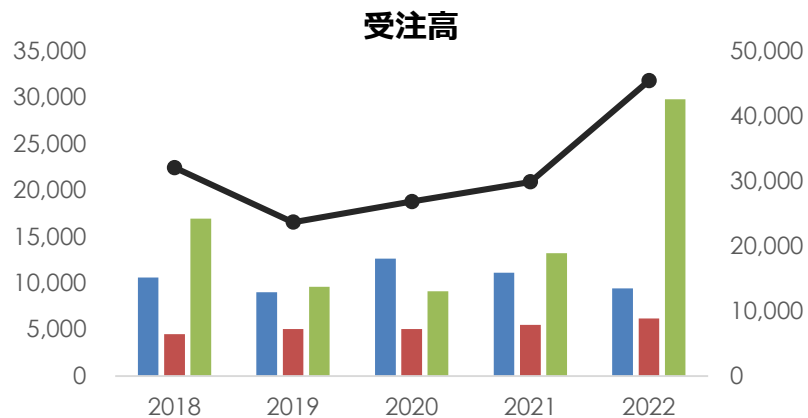
海外向け海水淡水化プラント、火力発電所、上下水道施設かんがい施設など。

需要先別受注高・売上高・受注残高

		2021年度2Q			2022年度2Q		
		受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
官 需		11,134	5,602	20,701	9,426	5,742	18,956
	前年増減率	▲11.9%	—	—	▲15.3%	2.5%	▲8.4%
民 需		5,503	4,808	7,419	6,211	4,687	9,721
	前年増減率	8.8%	—	—	12.9 %	▲2.5%	31.0%
海 外		13,227	10,972	28,630	29,794	14,700	55,540
	前年増減率	44.9%	—	—	125.2%	34.0%	94.0%
合 計		29,866	21,383	56,752	45,432	25,130	84,219
	前年増減率	11.3%	—	—	52.1%	17.5%	48.4%

2021年度は、「収益認識に関する会計基準」を適用した初年度のため前年増減率は記載しておりません。

受注高・売上高・受注残高の推移（需要先別）



単位：百万円

左軸

■ 官需 ■ 民需 ■ 海外

右軸

● 合計額

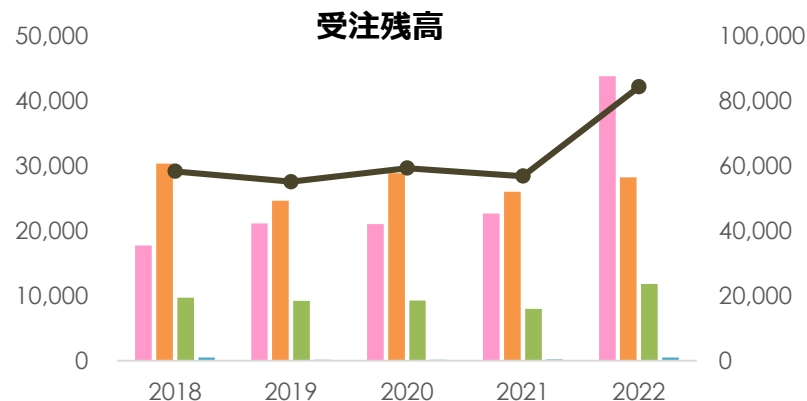
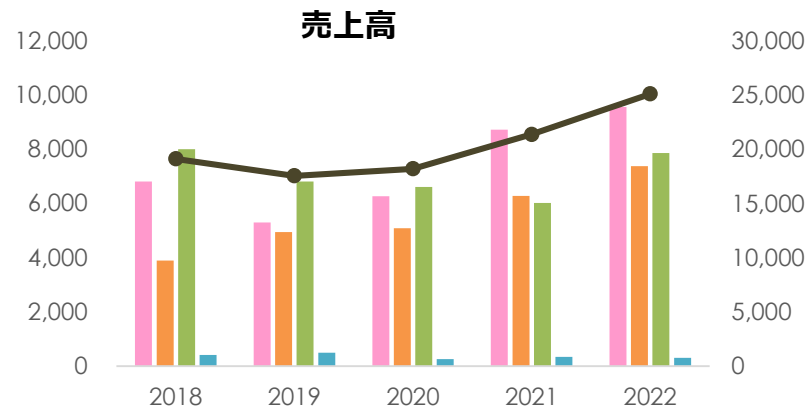
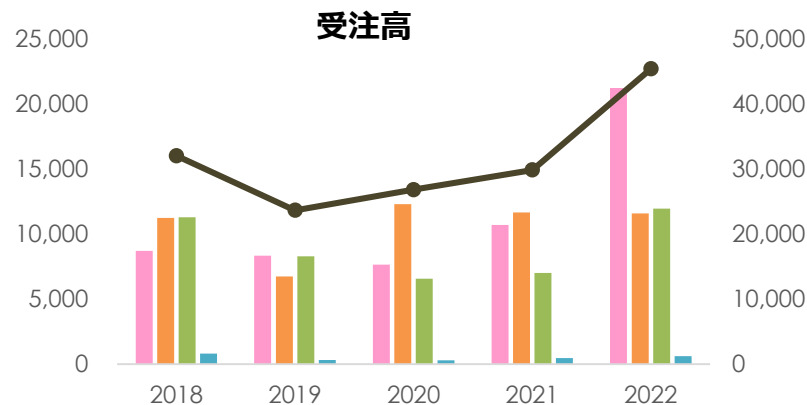
事業分野別受注高・売上高・受注残高

単位：百万円

		2021年度2Q			2022年度2Q		
		受注	売上	受注残	受注	売上	受注残
ハイテクポンプ		10,702	8,726	22,637	21,253	9,573	43,757
	前年増減率	39.8%	—	—	98.6%	9.7%	93.3%
プロジェクト		11,673	6,290	25,974	11,601	7,383	28,203
	前年増減率	▲5.1%	—	—	▲0.6%	17.4%	8.6%
サービス		7,021	6,030	7,977	11,971	7,866	11,784
	前年増減率	6.7%	—	—	70.5%	30.4%	47.7%
新工ネ・環境		470	338	164	607	309	475
	前年増減率	59.9%	—	—	29.1%	▲8.6%	189.6%
合 計		29,866	21,383	56,752	45,432	25,130	84,219
	前年増減率	11.3%	—	—	52.1%	17.5%	48.4%

2021年度は、「収益認識に関する会計基準」を適用した初年度のため前年増減率は記載しておりません。

事業分野別受注高・売上高・受注残高（百万円）



単位：百万円

左軸

■ ハイテクポンプ
 ■ プロジェクト
 ■ サービス
 ■ 新エネ

右軸

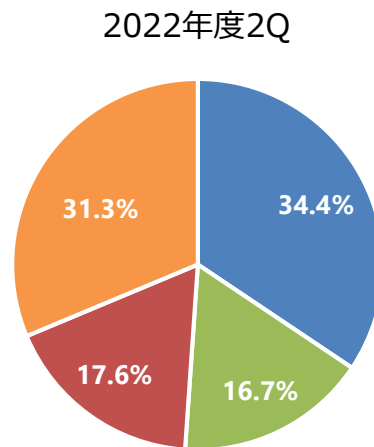
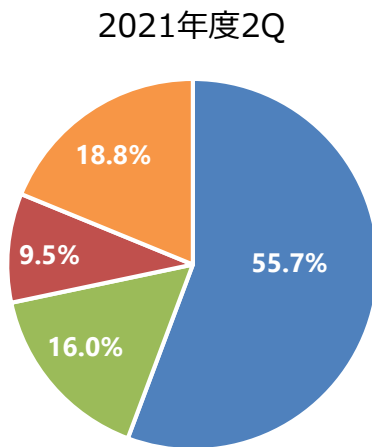
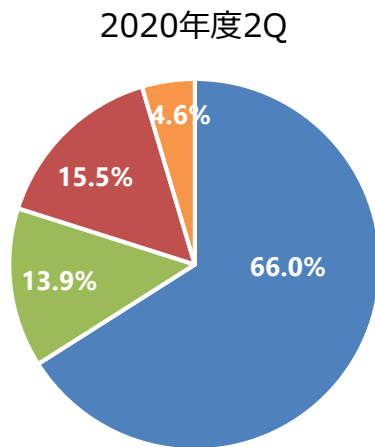
● 合計額

地域別受注高

単位：億円

	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2020年度 第2四半期	177 (66.0%)	91 (34.0%)	37 (13.9%)	42 (15.5%)	12 (4.6%)	268
2021年度 第2四半期	166 (55.7%)	132 (44.3%)	48 (16.0%)	28 (9.5%)	56 (18.8%)	298
2022年度 第2四半期	156 (34.4%)	298 (65.6%)	76 (16.7%)	80 (17.6%)	142 (31.3%)	454

■ 日本
■ アジア
■ 中東
■ その他



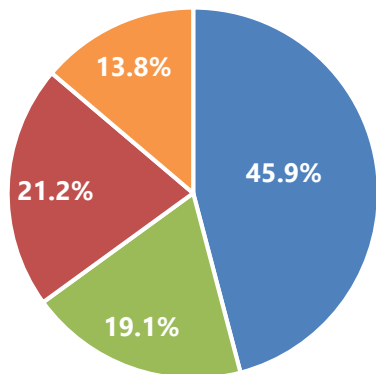
地域別売上高

単位：億円

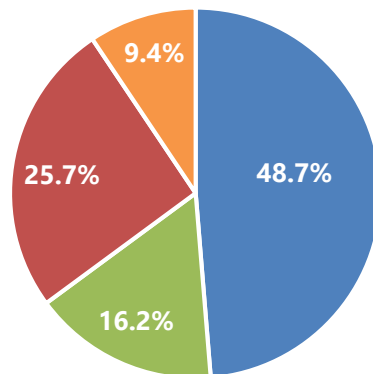
	日本	海外全体	海外内訳			合計
			アジア	中東	その他	
2020年度 第2四半期	83 (45.9%)	99 (54.1%)	35 (19.1%)	39 (21.2%)	25 (13.8%)	182
2021年度 第2四半期	104 (48.7%)	110 (51.3%)	35 (16.2%)	55 (25.7%)	20 (9.4%)	214
2022年度 第2四半期	104 (41.5%)	147 (58.5%)	51 (20.3%)	46 (18.3%)	50 (19.9%)	251

■ 日本
■ アジア
■ 中東
■ その他

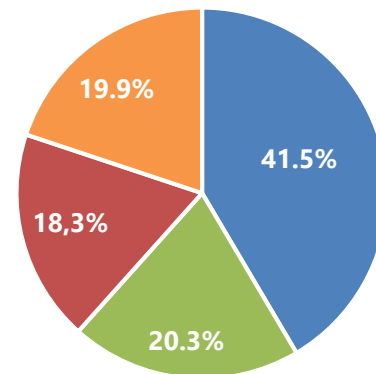
2020年度2Q



2021年度2Q



2022年度2Q



本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

【お問い合わせ先】

株式会社 西島製作所 総務部 I R広報課
Tel : 072-695-0551
Email : ir-torishima@torishima.co.jp